



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3394 号 2016.12.10 発行

障害者就労ネットワークで共同受注 製品の展示即売会も（山口）



福祉新聞 2016年12月09日 編集部
セルブ南風で開かれた展示即売会には多くの人が訪れた

山口県宇部市の障害者就労ネットワーク会議主催の事業所製品展示即売会が11月22日、障害者支援施設「セルブ南風」の駐車場などで開かれた。

同会議は、就労系障害福祉サービス事業所や企業、行政などで構成。「就労支援」「移行支援」「継続支援」を目的としたワーキングチームを毎月開き、

就労先の開拓や職場定着支援、製品の展示販売、共同受注システムの運営などを行っている。

展示即売会には、同会議に加入する20事業所のうち、6事業所の手作りパンやジャム、野菜、手芸品などが出展され、近隣住民など多くの人が来場し購入していった。

また、会場では発達障害のあるウォーターアートパフォーマーの堀川玄太さんがウォーターアートを披露。霧吹きやホウキなど掃除道具を使って、ディズニーキャラクターなどを描いて見せ、来場者から大きな拍手が送られた。

堀川さんのパフォーマンス

展示即売会は、市内の各種イベントで行っており、9～11月はほぼ毎週末に開催した。ハードな日程になるが、利用者の工賃アップや、障害者就労への理解促進などにつながるだけに、各事業所の職員が手分けして出掛けて行くという。



同会議について谷寛子・市健康福祉部障害福祉課長は「活動はすべて事業所中心に行われており、行政とも良いパートナーシップを築いている。特に共同受注事業は、窓口担当の『セルブ岡の辻』がうまく各事業所に割り振ってくれるので助かっている」と話す。

公園の清掃や草刈り、学校給食をクラス人数ごとに分ける仕事など、行政から同会議を通じて発注される仕事は年間約4000万円。話をするだけで各事業所に均等になるよう仕事を振り分けてくれる同会議は、行政にとっても欠かせない存在になっているようだ。

精神障害者就労で15日に市民公開講座 前橋

東京新聞 2016年12月9日

二〇一八年度から障害者雇用率の算定の要素に精神障害者が加わることをテーマにした「精神障害者就労における市民公開講座」が十五日、前橋市大友町の前橋マーキュリーホテルで開かれる。入場無料。

県医師会と医薬品開発製造、ヤンセンファーマ（東京）の共催。精神障害者は適切な治療で社会復帰できるが、社会や企業の理解が進んでいない現状があり、講座を企画した。企業の担当者の他、精神障害者の家族らも受講できる。

司会役は群馬大健康支援総合センターの竹内一夫教授が務め、午後二時半から上毛病院（前橋市）の服部徳昭院長が「精神疾患と治療について」と題して講演する。

続いて、ひだクリニック（千葉県）の肥田裕久院長が精神障害者の事例を基に医療現場での取り組みを報告。NPO法人「わかくさ福祉会」（東京）の野路和之さんが精神障害者の就労継続をテーマに講演し、質疑応答を含めて午後五時ごろに終了する予定。

十三日までに事前予約が必要。問い合わせはヤンセンファーマ＝電03（4411）5024＝へ。（菅原洋）

発達障害 県の間診票活用は10市町村（山梨県）

山梨放送 2016年12月8日

発達障害児の早期発見について、県が独自に作成した間診票を活用する市町村が10市町村に留まっていることが8日分かった。

これは8日、市町村の担当者を集めて開かれた研修会で県が示した。1歳6カ月児検診、2歳児検診ともに県が作成した間診票を活用する市町村は10市町村だった。

参加者からは保健師の判断材料として役立っているという意見があった一方で、普及に向けた研修や周知が足りないといった意見が上がった。

また保護者や教諭が子どもの情報を共有するサポートノートは10市町村が活用している一方、保護者の協力が得られなければ活用が難しいことなど問題点も示された。

【相模原殺傷事件】安倍晋三首相「病院、自治体の連携不十分」 関係関係に取り組み指示

産経新聞 2016年12月9日

閣議に臨む安倍晋三首相（中央）＝9日午前、首相官邸（斎藤良雄撮影）

安倍晋三首相は9日、相模原市の障害者施設での殺傷事件を受けて開いた関係閣僚会議で「措置入院を終え退院した後の地域での支援について制度的な仕組みがなく、病院や自治体の連携も不十分であったなどの問題点が明らかになった」と述べ、再発防止の取り組みの具体化を指示した。



【浪速風】「支援」で再発を防げるのか（12月9日）

産経新聞 2016年12月9日

昭和39年3月、ライシャワー駐日米大使が統合失調症の少年に刺され重傷を負う事件が起きた。精神障害者による犯罪への関心が高まり、精神衛生法改正のきっかけになったが、「保安処分」の議論は深まらなかった。「人権侵害」「権力が乱用する恐れ」などの反対論がわき起こったからだ。

▼相模原市の障害者施設での19人刺殺事件を受け、厚生労働省の有識者検討チームの最終報告書が公表された。再発防止策には「支援」という言葉が数多く出てくる。措置入院中から患者が孤立しないための「継続した支援」が必要で、都道府県知事や政令市長に退院後の「支援計画」作成を求めている。

▼具体的には、訪問相談や障害福祉サービスなどを挙げるが、どれほど実効性があるだろう。自治体や医療に責任を押しつけるだけではないか。欧米では刑事司法で犯罪予防的

な「治療処分」が制度化され、専門病院もある。議論すらされずに、悲劇が繰り返されたらどうする。

予算案閣議決定「22日」に...麻生財務相が表明 読売新聞 2016年12月09日

麻生財務相は9日の閣議後の記者会見で、編成中の2017年度予算案と16年度第3次補正予算案を閣議決定する日程について、「22日を目指す」と表明した。

例年は予算案を24日に決定していたが、今回は3連休の2日目に当たるため、異例の前倒しとなった。安倍首相が26日から米ハワイ・真珠湾を訪問し、24日では日程が窮屈なことも影響しているとみられる。

麻生氏は、17年度予算案で焦点となっている社会保障費の伸び（自然増）の圧縮について、政府が財政健全化に向けて年5000億円に抑える目標を掲げていることを挙げ、「(範囲内に)きちんと収めていく」と述べた。

16年度第3次補正予算案には、夏以降に相次いだ台風や大雨などに対する災害復旧費や防衛費の積み増しなどが盛り込まれる見通しだ。

介護職員が医療行為 東広島拠点の法人グループ 中国新聞 2016年12月9日

東広島市に拠点を置く医療法人好縁会のグループが、広島市と広島県府中町で運営する7カ所の老人福祉施設で、本来は医師や看護師しかできない点滴の針を抜く医療行為を介護職員がしていたことが8日、分かった。研修を受けるなどの要件を満たさずに、たんの吸引などを3施設の介護職員がしていたことも判明。介護職員の不適切な医療行為を受けた利用者は少なくとも昨年9月以降、数十人に上る。事業所の指定・監督権限を持つ広島県や広島市は医師法など関係法令に違反する疑いがあるとみて調査を進めている。

点滴の抜針は、医師や看護師以外の無資格者が業として行うことは禁止されている。広島市や医療関係者によると、針を無理に抜いたり、止血が不十分だったりすると出血が多くなるほか、患部に異常がある場合は適切な処置が必要。抜いた針が自身に刺さると、感染症になる恐れもある。

同法人によると、今年8月、法人の施設内で点滴の抜針などを介護職員にさせている疑いがあると広島市から指摘を受けた。直近の1年間を調べたところ、広島市と府中町のグループホーム7カ所で34人の利用者の点滴の抜針を介護職員がしていたことが判明した。

さらに、介護職員が東広島市内の介護付き有料老人ホームで9人の利用者のたんを吸引し、広島市と府中町のグループホーム2カ所で、3人に栄養と水分をチューブで体内に注入する「胃ろう」をしていたことを確認したという。

たん吸引と胃ろうは決められた研修を受け、事業所ごとに都道府県から「登録特定行為事業者」として登録されれば、介護職員でもできる。法人などはこれらの要件を満たしていなかった。県によると、11月末現在、県内では448事業者が登録されている。

好縁会は1996年に設立。東広島市や広島市、府中町で、診療所や老人ホームなど計35施設をグループで運営している。法人によると、それぞれを所管する県や市町から介護記録の保存を義務付けられている2011年以降の実態について報告を求められ、既に回答し、指導を受けたという。

医師で好縁会の下山直登理事長は中国新聞の取材に対し、「たまたま重大事案には至らなかったが、(無資格者による)抜針は不測の事態を招く恐れもあっただけに、利用者と職員に申し訳ない。法令の周知不足などが原因で、研修などを通じ再発防止を徹底する」としている。

ともに考えよう 障害者週間記念事業・補助犬シンポに寄せて／上 外出の不安、消した

外出を楽しむ佐藤京子さんと、介助犬ニコル＝東京都世田谷区で、釣田祐喜撮影



「第18回身体障害者補助犬シンポジウム」が11日、宝塚市で開かれる。身体障害者補助犬法の施行から14年が過ぎたが、飲食店や医療機関などでの補助犬の同伴拒否は今も後を絶たない。障害がある人たちが暮らしやすい社会を目指すには何が必要か、多くの人たちと改めて考えたい。シンポを前に参加者に思いを聴いた。

「多くの人が見て、知って」

「補助犬と一緒にいることも、障害者が街にいることも当然と思える社会にしたい」。昨年2月に介助犬になったニコルと暮らす佐藤京子さん（50）＝東京都世田谷区＝に、新しい目標ができた。2004年のアテネ・パラリンピック陸上で銀メダル獲得後、事故によるけがで競技を諦め、一時目標

を見失い、外出も減った。だが、ニコルのおかげで安心して外出できるようになり、こう思うようになった。「補助犬をもっと知ってもらうために、たくさん外に出て、多くの人と触れ合おう」

高校生の頃、バスケットボールの練習中に転倒して脊髄（せきずい）損傷の大けがを負った。2003年にも転倒事故のため手足にまひが残り車いす生活になった。スポーツが好きで、東京都渋谷区役所の職員として働きながら、20代から陸上競技の円盤投げを始めた。試合ごとに記録を伸ばすことができた。2004年のパラリンピックの女子円盤投げ（脳性まひ1、車いす1）で11メートル09センチを記録し銀メダルを獲得した。

しかし事故は重なった。06年8月、職場のエレベーターで4階から3階に行く時にエレベーターが床面より高い位置で止まり、それに気づかず車いすをバックさせて降りようとして後ろに転倒した。何らかの原因で扉に3センチの隙間が開いたまま降下したため緊急停止し、段差が生じたらしい。この時のけがで以前にも増して体を動かすのが難しくなった。金メダルを目標に次のパラリンピックを目指すどころか、円盤投げも続けられなくなった。区役所も休職の後に退職。物を床に落とした時にうまく拾えない不安があり、外出をためらうようになった。

だが、15年2月に訓練を終え、介助犬の認定審査に合格し、ともに暮らすようになった介助犬ニコルが心境を大きく変えた。硬貨やペンなどを落としても、頼めばニコルは喜んで拾ってくれる。不安が薄れ、積極的に外出できるようになった。

介助犬、盲導犬、聴導犬の3種の補助犬は全国で約1100頭にとどまる。存在を知らない人も多い。飲食店や医療機関などで受け入れ拒否が続く現状に「補助犬への無関心や知識のなさが問題を生む」と感じている。佐藤さんは昨年、地元の小学校であるラジオ体操にニコルを連れて参加したり、都内の小学生に講演したりするようになった。

「何している犬なの」と子どもたちにたずねられ、「落とした物を拾って助けてくれるんだよ」と説明し、補助犬を紹介するパンフレットを手渡す。佐藤さんは「できるだけ多くの人に補助犬を見せて、知ってもらうことが大切。だから、補助犬を知るきっかけになるよう、できる限りニコルを連れて繰り返し街に出かけたい」と心に決めている。

第25回障害者週間記念事業・第18回身体障害者補助犬シンポジウムは11日（日）午前10時20分～午後4時20分、宝塚市逆瀬川1の「アピア1」一帯で開かれる。佐藤さんの講演や、尼崎市在住の車椅子のピアニスト、池田佳ず実さんのコンサートを予定する。補助犬使用者によるトークや、補助犬のデモンストレーションもある。無料。市障害福祉課（0797・77・2077）。

補助犬育成のためのシンシア基金

〒530-8251 大阪市北区梅田3の4の5、毎日新聞大阪社会事業団「シンシア

基金」(郵便振替00970・9・12891)。通信欄は「シンシア基金」。

障害者・家族、学生と交流 かえでの会企画 西九州大が参加



佐賀新聞 2016年12月09日

障害者とその家族が西九州大の学生らと交流したクリスマス会＝吉野ヶ里町のきらら館

障害者やその家族、西九州大の学生らによる交流会が4日、吉野ヶ里町のきらら館であった。障害のある子を持つ父母らでつくる「かえでの会(神埼市郡)」が地域社会での共生を目指した余暇支援として開き、クリスマスをテーマにレクリエーションをしたり、ご飯を食べたり和やかに交流した。

かえでの会は10年ほど前から「障害があっても地域で暮らせるように」と年に4回、ふれあいの集いを開いている。本年度から西九州大の授業「あすなろう体験」を選択した心理カウンセリング学科の学生らが参加している。

この日は約30人が参加し、学生たちの進行でプレゼント交換やアルバム作りなどを行った。車いすを使って生活している中村侑紀さん(23)は「切ったり張ったりすることが好きで、アルバム作りは楽しかった」と笑顔を見せた。

かえでの会によると、平日は送迎がある作業所などに通うことができるが、余暇支援の充実が課題になっているという。会員の深堀久美子さん(54)は「取り組みをもっと知ってもらい、地域の人などにも参加してもらえれば」と話す。次回は来春の開催を予定している。

豊洲に為末さん館長のランニング施設 東京パラリンピックへ選手支援



東京新聞 2016年12月9日

「新豊洲Brillia(ブリリア)ランニングスタジアム」のオープングレセプションで走る館長の為末大さん(手前)ら＝9日午前、東京都江東区で

障害のある人もない人も、共にスポーツを楽しめる施設「新豊洲Brillia(ブリリア)ランニングスタジアム」が東京都江東区豊洲に完成し、九日午前、オープングレセプションが開かれた。障害者アスリートがトレーニングに使えるほか、施設内には競技用義足の開発を行うスペースも併設。二〇二〇年東京パラリンピックに向け、選手を強力にサポートする。(北爪三記)

二〇二〇年東京パラリンピックに向け、選手を強力にサポートする。(北爪三記)

トンネルのような外観で、支えるフレームには木材を使いアーチ状に組み合わせた。延べ床面積約二千平方メートルで、六十メートルの直線トラック六レーンを備え、義足の研究開発用スペース、車いすのまま使用できるシャワールームなどもある。

障害の有無にかかわらず走りを指導できるコーチが常駐。アスリートだけでなく、子どもたちのかけっこスクールやパラスポーツの体験会、身体表現のパフォーマンスのトレーニングなども行っていくという。

館長には、〇〇年シドニー五輪から三大会連続で陸上の日本代表を務めた為末大さんが就任。為末さんは九日、「二〇年東京五輪・パラリンピック



に向けて、象徴的な施設ができないかと考えた」と開設までの経緯を紹介し、「障害の有無や年齢、国籍を問わずすべての人がここでスポーツやアートを楽しめる施設にしていきたい」と語った。

施設は、東京建物が命名権を取得するなどスポンサーとして整備。為末さんが経営する会社「侍」(渋谷区)と競技用義足の開発を手掛ける「X i b o r g (サイボーグ)」(渋谷区)、NPO法人「スローレーベル」(横浜市)、「東京ガス用地開発」(港区)が二〇年まで運営にあたる。

利用時間は午前九時～午後九時、料金は一般が一回八百円、月額三千円、学生と障害者は一回五百円、月額二千円。問い合わせは、同スタジアム＝電03(5144)0404＝へ。

スタジアムの外観

十、十一の両日は無料体験イベントを開催。五十メートル走測定会(十日午後一～五時、十一日午前十時～正午、午後一～五時)、パラ陸上の競技用車いす体験(十日午後一～五時)＝いずれも参加自由＝などがある。



村田・府警本部長 インタビュー 特殊詐欺、重点犯罪に /大阪

毎日新聞 2016年12月9日

今年8月に着任した府警の村田隆本部長が毎日新聞のインタビューに応じた。府警捜査2課長と刑事部長も歴任し、3度目の勤務。子どもや女性を狙った性犯罪や、過去最悪の被害状況となっている特殊詐欺事件の摘発や抑止に力を入れる考えを明らかにした。【聞き手・田中謙吉】

――府内の犯罪情勢をどうみているか。

街頭犯罪はピーク時の2001年と比べると昨年は約6割減になっている。今年10月末現在でも昨年同期に比べ着実に減っているが、府民感覚からすると治安はまだ悪いという印象だろう。地域の犯罪情勢に即した抑止対策と検挙を進めていきたい。今年は子どもと女性を狙った性犯罪の対策に力を入れている。ひったくりや路上強盗なども含めて重点犯罪としているが、高齢者が狙われている特殊詐欺事件も加えたい。

――本部長として力を入れたいことは？

当たり前のことだが、児童虐待事件では被害者が110番してくることはほとんどない。だが、児童相談所(児相)ともっと情報を共有することで少しでも被害者を減らせるのではないかと考えている。例えば、警察が取り扱った事案で、児相が被害児童の保護を解除して自宅などに戻す場合、警察に教えてもらいたい。警察が持っている情報も提供し、再被害を防いでいきたい。

外国人の観光客が増えているので、大阪の繁華街、キタとミナミの交番でも外国人に対応できる態勢をつくりたい。困った時にここに行けば何とかかなると思われるようなものを整備していきたい。捜査以外にも、警察としてできることがある。

また、今後はどんな事件でもサイバー犯罪に対する知識なしには捜査できなくなっていくだろう。対策を進めたい。

電話番号変えるのが一番

――特殊詐欺の被害が府内で過去最悪になっている。

11月1日に捜査部門だけではない140人態勢のチームを発足させた。最近ではアジトを摘発した。押収した資料には高齢の府民の名簿があった。被害を受けないためには、自宅の電話番号を変えるのが一番だ。(名簿に記載されていた高齢者の)息子さんや娘さんには、電話番号を変えるように親に伝えてくださいと声をかけている。捜査2課だけではなく、あらゆる部署で対応していきたい。

希少ピアノの音色が聴衆魅了 旭川荘厚生専門学院でコンサート



山陽新聞 2016年12月8日
会場に美しい音色を響かせたと北川さん（右）と山田さん
戦後間もない時期に国内で製造された希少なピアノを、国内外で活躍する音楽家が奏でるコンサートが8日、旭川荘厚生専門学院（岡山市北区祇園）であり、学生ら約300人を魅了した。

ピアノは1982年、天満屋（同表町）から社会福祉法人・旭川荘（同祇園）に贈られ、卒業式などで長年演奏されてきた。同荘によると、ヤマハの前身・日本楽器製造が52年ごろに造ったもの

ので、グランドピアノより一回り大きく、繊細な音色や力強い低音などが特長という。

コンサートでは、若手指揮者の登竜門とされる国際コンクールで優勝した指揮者の山田和樹さん（37）がピアノを演奏し、フルート奏者の北川森央さん（39）と美しい音色を響かせた。同学院看護科3年の女子学生（21）は「歴史のあるピアノが学院にあると知り驚いた。2人の紡ぐ音楽に心が落ち着いた」と話していた。

山田さんら2人はこの日、旭川荘が毎年、社会福祉などに関心を持ち、世界で活躍する若手演奏家に贈っているグラチア音楽賞を受賞し、コンサートに出演した。

選挙の郵便投票の対象拡大 来春をめど一定の方針



NHK ニュース 2016年12月9日
各種の選挙で、寝たきりなど介護なしでは生活できない人などに限って認めている「郵便投票」の対象の拡大に向けた総務省の有識者研究会の初会合が開かれ、具体的な対象範囲などについて、来年の春をめどに一定の方針を取りまとめることを確認しました。

この研究会は、出歩くのが困難な高齢者らが各種の選挙で投票しやすいようにするため、現在、寝たきりなど介護なし

では生活できない「要介護5」の人などに限って認めている「郵便投票」の対象の拡大に向けて、総務省が設置しました。

9日の初会合には、選挙制度や福祉政策に詳しい有識者ら10人の委員が出席し、高市総務大臣は、「在宅介護を受けている高齢者の中には、投票所に行きたくても行くのが難しい人も多くいる。こうした高齢者の投票機会を確保することも必要だ」と述べました。

「郵便投票」は、あらかじめ請求した投票用紙に候補者名を書いて郵送で投票することから、なりすましなど不正な投票が行われる懸念も指摘されています。このため研究会では、公正な投票をどう確保するかなどの検討を進め、具体的な対象範囲などについて、来年の春をめどに一定の方針を取りまとめることを確認しました。

待機児童の数え方、市町村でバラバラ 厚労省に改善勧告 朝日新聞 2016年12月9日

総務省行政評価局は9日、自治体の子育て支援行政を調査した結果、認可保育施設に入れない待機児童の数え方が市町村によって違うために、実態が正確に公表されていないなどとして、厚生労働省に改善するよう勧告した。

行政評価局によると、厚労省は、保護者が育児休業中の場合、待機児童の数に含めるかどうかを、市町村の裁量に任せている。

同局が昨年8月以降に調べた19都道府県の66市町村のうち、育児休業中の保護者の子について、待機児童数に含めているのは10市町村（15・2%）、3歳以上など一定の条件に該当した子だけを含めているのは6市町村（9・1%）だった。残り50市町村（75・8%）は含めていなかった。

厚労省が公表している全国の自治体ごとの待機児童数（4月1日現在で計2万3553人）からは数え方の違いがわからず、保護者の居住地・保育施設選びに影響する恐れがあるとして、厚労省に待機児童の数え方の明確化などを勧告した。

また、児童数の変動の予測を誤り、待機児童を思うように減らせなかった市町村も複数あった。ある自治体では、大型マンション建設で児童数が200人以上増えることが見込まれたのに、福祉担当部署が住宅開発担当部署からその情報を得るのが遅れ、保育施設の定員を増やせず、待機児童を減らせない一因となったと指摘した。

行政評価局は、都市開発の情報を各部署で共有するなどして、保育施設の需要予測を正確にすることを市町村に要請するよう、市町村の子育て支援を所管する内閣府に勧告した。（四倉幹木）

県庁で初の「フードドライブ」



信濃毎日新聞 2016年12月9日
県職員や市民から寄せられ、品目ごとに仕分けられた食品＝8日、県庁

家庭などで使われないままの食品を持ち寄って、生活上の困難を抱える人に届ける「フードドライブ」の催しが8日、県庁玄関ホールで初めて行われた。レトルト食品やコメなどを手にした県職員、市民らが次々と訪れ、87人から計324キロが集まった。

常温保存でき、賞味期限が1カ月以上あるものなどを募った。会場では資源循環推進課や地域福祉課の職員が対応し、カップ麺な

どを持ってきた人たちに、「たくさんありがとうございます」などと声を掛けていた。

この日集まった食品の中には、30キロのコシヒカリも。ツナ缶三つを寄付した県職員の男性（44）は「おなかをすかせている子どもたちの力になればうれしい」と話した。

9日も午前11時半～午後1時半に同じ場所で開く。両日に集まった食品は、生活困窮者支援などに取り組むNPO法人「フードバンク信州」、「信州こども食堂ネットワーク」に寄付する。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

